

比較の檻に囚われる日々

主人公のタケシ（若手社会人）は、職場で同期や先輩の成績表を見てため息をついている。

あいつ、
またデカイ案件
取ったのか…
それに比べて俺は…

でもまあ、
後輩の山田よりはマシか。
あいつ全然ダメだし。

???



一瞬の安堵と見下し

後輩が初歩的なミスをして上司に怒られているのを見て、密かに安心するタケシ。

うわ、山田のやつ
また基本中の基本で
怒られてるよ。

俺はもうあんな
ミスしないし。
やれやれ (笑)



切り捨てられる「過去」

タケシの背後に導き手が現れ、
ハッとさせられる。

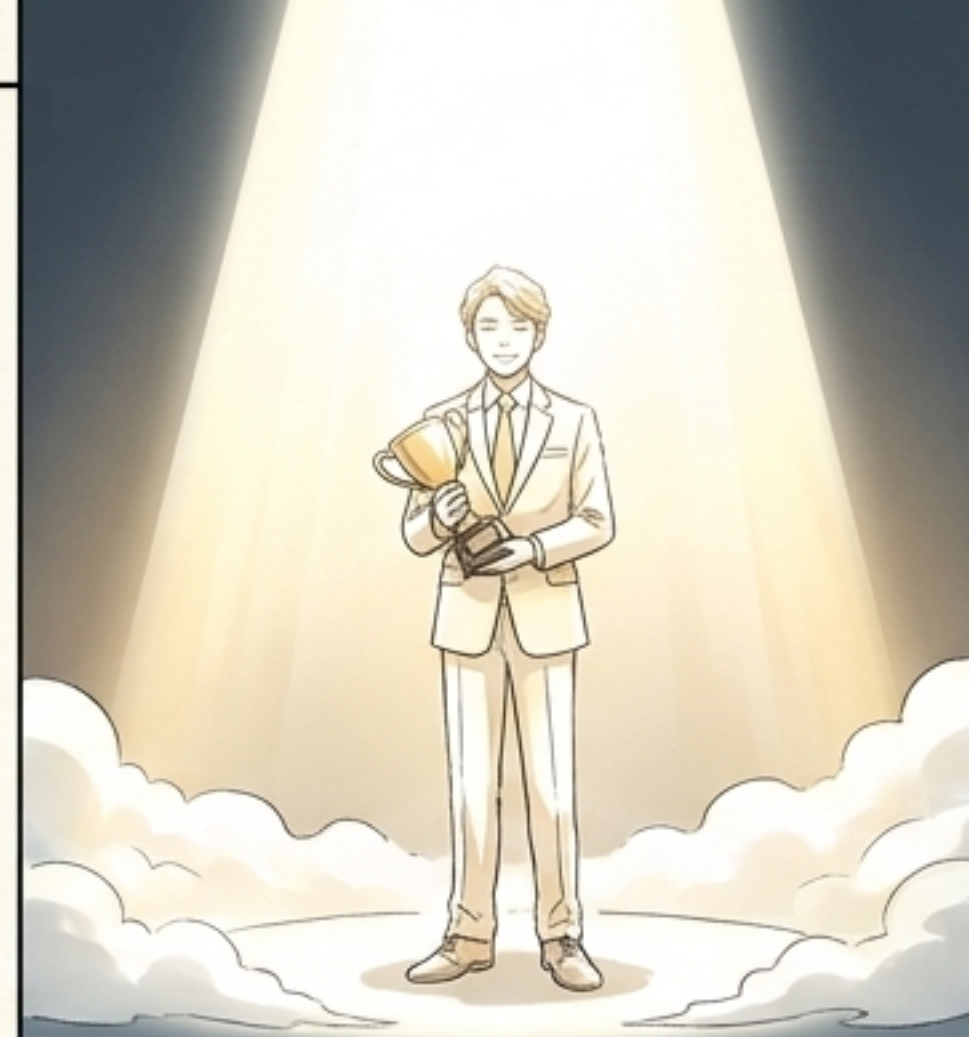
えっ……？

その安心は錯覚だよ。
君だって昔はあそこで
何度も転んでたろう？

今の彼を笑うことは、
必死に積み重ねてきた
『過去の自分』を切り捨
捨てると同じことだ。

別次元という諦め

社内表彰式で圧倒的な成績を出す
先輩を見て意気消沈するタケシ。



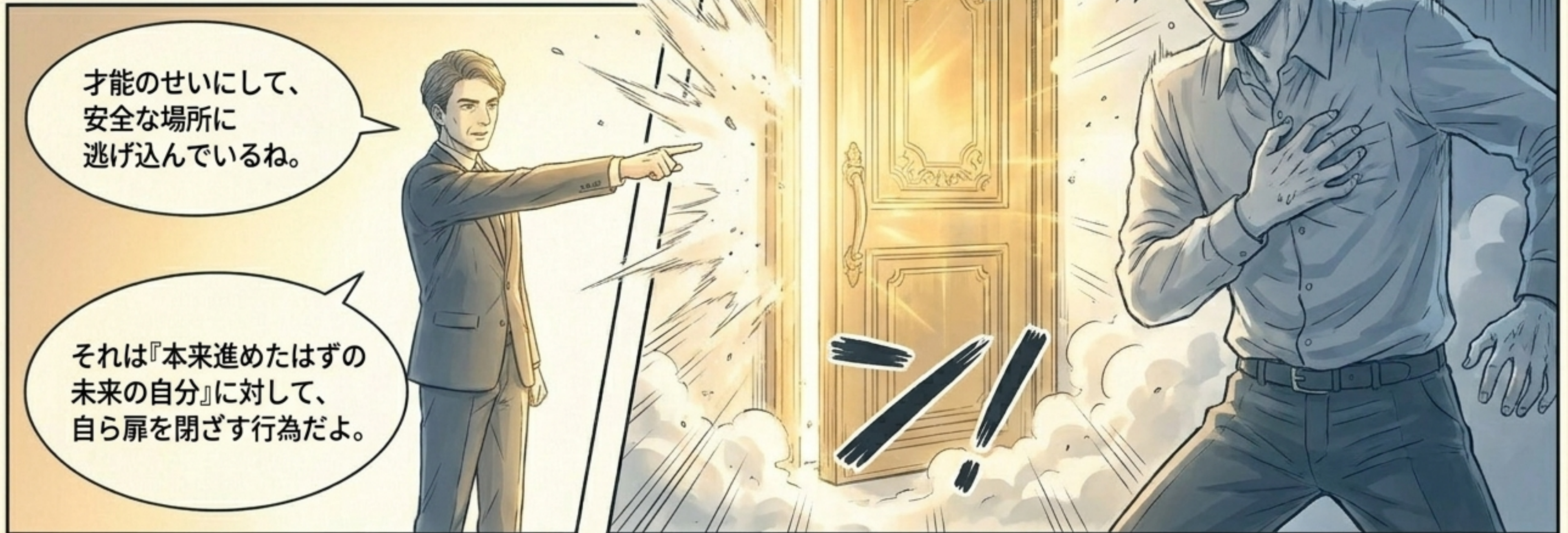
やっぱり先輩は特別だな。
才能の次元が違うよ。

俺がどんなに頑張っても、
あんな風にはなれない…



閉ざされる「未来」

再び導き手が現れ、タケシの「諦め」の正体を鋭く指摘する。



今という地点の喪失

比較によって「過去」と「未来」の両方を失い、
真っ白な空間に取り残される。

未熟を笑って
『過去』を捨て、
優秀を妬んで
『未来』を捨てる…

これじゃあ、
俺には『今』すら
残らないじゃないか!

過去

未来

全員が立つ「同じ道」

暗闇がサッと晴れ、一本の果てしなく続く「道」のビジョンが壮大に広がる。

人は別の生き物ではない。
全員が『同じ道』の上に
立っているんだ。

進んでいる距離が違い、
見えている景色が違う。
ただ、それだけの差だよ。

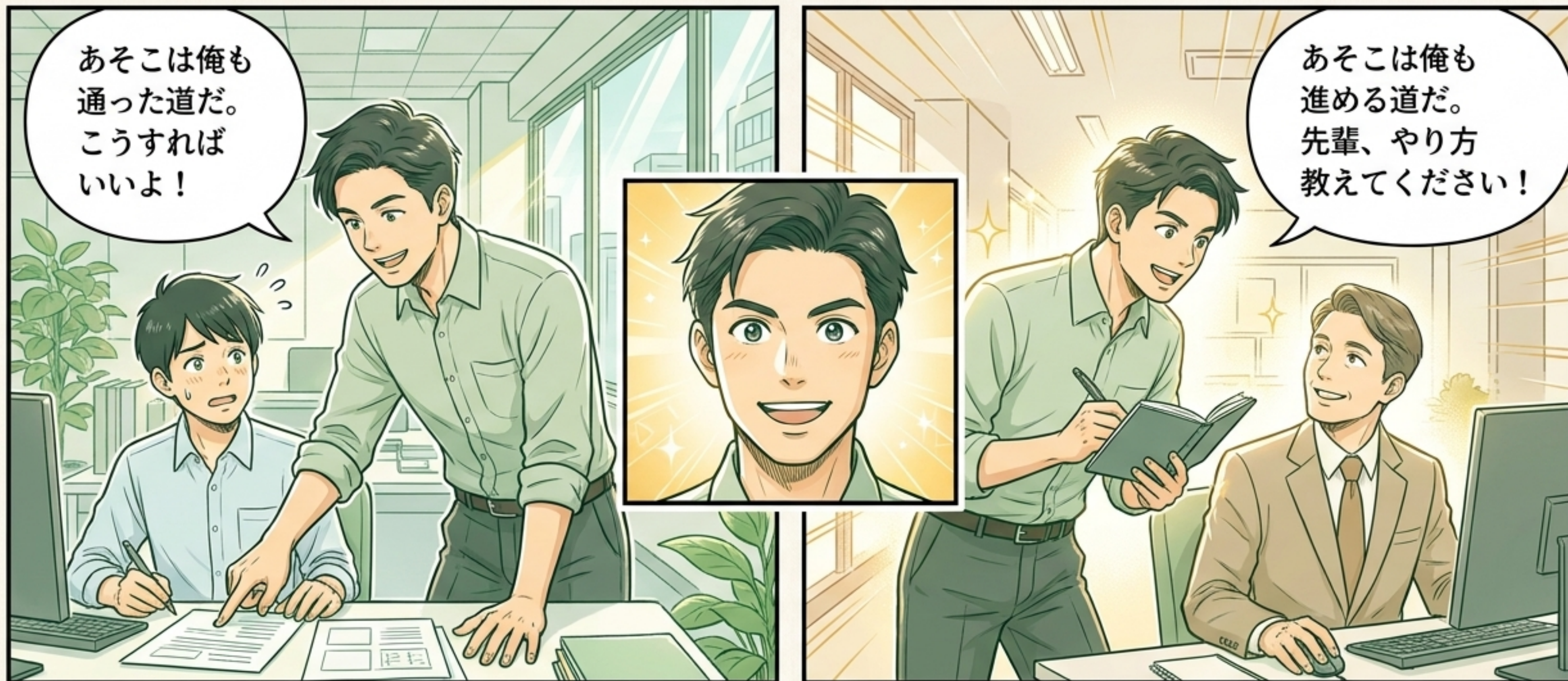
比較ではなく「位置」を知る

道の上で自分の現在地（位置）を客観的に確認するタケシ。



過去を肯定し、未来を拓く

翌日の職場。後輩のミスや先輩の成功に対するタケシの反応が変わる。



自分の道を歩む

他人と比較することをやめ、自分の仕事（道）に集中して成果を出し始めるタケシ。



進む場所としての道

夕焼け空の下、晴れやかな顔で一步を踏み出して帰路につくタケシ。

道は、評価する場所じゃなくて『進む場所』。

今日もまた一步、前に出よう。

